



[箏]
—ふたりのマエストロ—
野坂操壽×沢井一恵
Nosaka Souju × Sawai Kazue



Nosaka Souju



野坂操壽 [のさか・そうじゅ (恵子)] 箏・二十五絃箏

母初代野坂操壽から手ほどきを受け、9歳で加藤柔子に古典箏曲・地歌三絃を師事。東京藝術大学修士課程修了。1965～82年日本音楽集団団員。69年二十絃箏を開発。同年芸術祭奨励賞。86年小劇場ジャン・ジャンを拠点に、自作曲のライブツアーを3年間継続。91年二十五絃箏を発表。02年芸術選奨文部科学大臣賞。03年紫綬褒章、二代野坂操壽襲名。06年中島健蔵現代音楽賞、エクソンモービル音楽賞。09年旭日小綬章。10年箏独奏アルバム「錦木によせて」(邦楽ジャーナル)、11年「箏曲『六段』とグレゴリア聖歌『クレド』(日本伝統文化振興財団)、二十五絃箏完成20周年記念「偲琴」(カメラータ)をリリース。10年度日本藝術院賞。11年二十五絃箏制作20周年記念として第25回リサイタルを開催。現在、桐朋学園芸術短期大学教授、公益社団法人日本三曲協会・生田流協会常任理事、生田流箏曲松の実會主宰。

Sawai Kazue



沢井一恵 [さわい・かずえ] 十七絃

宮城道雄に師事。東京藝術大学音楽学部卒業。1979年沢井忠夫と沢井箏曲院設立。現代邦楽で活躍する一方、全国縦断「箏遊行」、一柳慧作曲+吉原すみれ(打楽器)とのコンサートツアー、ジョン・ゾーン、高橋悠治プロデュースによるリサイタルなど実験的活動を通し、伝統楽器としての箏と西洋音楽、現代音楽、JAZZ、即興音楽などとの接点を探求。99年NHK交響楽团委嘱、ソフィア・グバイドゥーリナ作曲の箏コンチェルト『樹影にて』をシャルル・デュトワ指揮でアメリカツアー。国内では、五嶋みどり(ヴァイオリン)とのプロジェクト「ミュージック・シュアリング」を展開中。2010年4月坂本龍一作曲『箏とオーケストラのための協奏曲』(初演)、『樹影にて』を佐渡裕指揮で演奏、8,000人の聴衆に感銘を与える。それを収録したCD「点と面」をcommonsより、また十七絃と五絃琴によるCD「THE SAWAI KAZUE」を邦楽ジャーナルより発売。

[プレイガイド]

リーデンローズチケットセンター、カワイミュージックショップ福山、スガナミ楽器本店、天満屋福山店8Fプレイガイド、久松レコード、TSUTAYA(市内各店・井原店・笠岡富岡店・府中高木店)、フジグラン神辺店、チケットぴあ☎0570-02-9999(Pコード135-878)、ローソンチケット☎0570-084-006(Lコード63897)、CNプレイガイド QRコード対応携帯電話からもチケットをご購入いただけます。



※変絃自在=「変幻自在」をもじった言葉で、心のまに自由に絃を操り、音楽を奏でることを表す。

